

## 松浦地区デマンド乗合タクシー 令和元年度実証運行の取組と新たな目標値について

### 1 令和元年度実証運行の方向性

平成30年度実証運行の開始前に実施した「利用意向調査」から見込んだ利用者数と、実際の利用者数が大幅に乖離している状況を受け、利用者を増やす取組として「乗り方教室」の実施や、利用者アンケート調査に基づき運行ダイヤの見直しを行ったが、これらの取組の成果把握が不十分であること、運行ルートの見直し等による取組の効果をさらに検証したいことから、松浦地区デマンド(予約型)乗合タクシーの実証運行期間を1年延長することとした。

- 運行開始当初は、高校生の「通学の足」として活用されることも期待していたが、利用者がほとんどいないこと、高校生アンケートの結果、回答者のほとんどは、保護者等の送迎により通学している状況であることから、当面は、高校生の公共交通ニーズは低いものと考えられる。一方、利用者アンケートの結果、まつうら号の利用目的は、「通院」が最も多いことから、令和元年度実証運行においては、「高齢者」がより利用しやすい運行を目指し、運行内容や予約方法等の改善を図っていくこととする。

#### 取組項目

- ・ 中心市街地における停留所(大栄町、中央町、駅前通)を追加し、平成31年4月1日から運行ルートを変更

高齢者をはじめとした利用者の利便性向上を図り、その効果を検証する

- 高齢者が公共交通を利用するに当たっては、利用方法に対する不安が大きいと考えられることから、地域が中心となって、引き続き「乗り方教室」を実施するとともに、松浦地区から目的地までの利用者に応じた「わたしの時刻表」を作成するなどの取組を通じて、公共交通利用への抵抗感をなくし、自家用車から公共交通利用へと促す取組を進める。

#### 取組項目

- ・ 地域自らが企画、実施する「乗り方教室」を展開する。

## 2 新たな目標値の設定

平成30年度実証運行の目標値と現状値が大きく乖離していることを受け、令和元年度実証運行においては、利用実態を踏まえた新たな目標値を設定し、その目標値の達成状況を踏まえて、令和2年度以降の運行について検討することとする。

平成30年度の指標と目標値

成果指標		目標値
1	一日当たり利用者数	70人
2	全運行本数に対する実運行本数(稼働率)	50%
3	運行欠損額	9,201千円



令和元年度の指標と目標値

成果指標		目標値
1	一日当たり利用者数	8人超
2	全運行本数に対する実運行本数(稼働率)	57%
3	乗合率	60%
4	運行欠損額	8,767千円

### ・設定根拠

#### (1) 一日当たり利用者数 8人超

平成30年度は、実証運行開始前に実施した「利用意向調査」結果から目標値を設定したが、運行される1便1便が地域の方に必要とされているかどうかを図る基準として「最低需要基準」を設定し、利用実態を踏まえた上で、目標値を設定する。

**最低需要基準 = 1便当たり1人超**



1日当たり7便の運行のため、一日当たり利用者数に換算すると「7人超」となるが、利用実績を踏まえて「8人超」とするもの。

#### 【実績】

- ・平成30年度(4月~11月)の一日当たり平均利用者数/6.3人
- ・平成30年度(12月~2月)の一日当たり平均利用者数/7.1人
- ・平成30年度(4月~2月)の一日当たり平均利用者数/6.5人

(2) 全運行本数に対する実運行本数(稼働率) 57%(4便/日)

高校生の利用も見込み、平成30年度は3台運行を想定していたが、利用実績から実稼働台数は1台となっている。そのため、令和元年度は1台運行として委託料を積算しており、目標値についても、利用実態を踏まえて1台運行で設定する。

【実績】

当初3台運行の場合の稼働率は、

- ・平成30年度(4月~11月)の稼働率/17.3%
- ・平成30年度(12月~2月)の稼働率/16.9%
- ・平成30年度(4月~2月)の稼働率/17.2%

1台運行としてみた場合の稼働率は、

- ・平成30年度(4月~11月)の稼働率/52.0%(3.12便/日)
- ・平成30年度(12月~2月)の稼働率/50.6%(3.54便/日)
- ・平成30年度(4月~2月)の稼働率/51.6%

12月のダイヤ見直し、増便によって0.42便増加しており、令和元年度に行うルート変更による効果も見込めるものと考え、「4便/日=57.0%」とするもの。

(3) 乗合率 60%

デマンド乗合タクシーの一人乗車率は、4月~2月までの平均で、50.2%となっており、一人で利用する割合が高くなっている。一人乗車では単に安価なタクシーを運行していることと同じになることから、新たに「乗合率」を成果指標に設定し、一人乗車率を減らしていく必要がある。

2月までの実績で、最も低い一人乗車率を示したのは、4月の38%であることから、「一人乗車率40%、乗合率60%」を目標とする。

【実績】 別添資料のとおり

(4) 運行欠損額 8,767千円

一日当たり利用者数の目標値を8人超とした場合、令和元年度の平日数は240日となることから、年間の利用者数は、1,920人超となる。

利用実績から、地区内輸送(大人200円区域)が4.9%、地区外輸送(大人300円区域)が95.1%となっており、地区外輸送のうち障がい者手帳提示者の割合が22.7%となっている。障がい者手帳提示者の割合が年々増加傾向にあることから、あやめバスの手帳提示者の割合の増加率が3年平均で0.6%であることから、23.3%として、利用料収入を見込むと、503千円となる。

年間利用者数 1,920人	地区内輸送 (4.9%)	94人(200円)	
	地区外輸送 (95.1%)	一般 (76.7%)	1,401人(300円)
		手帳 (23.3%)	425人(150円)
利用料収入 (見込)	502,850円		



	H30 実証運行	R1 実証運行
運行経費	14,033千円	9,270千円
利用料収入	414千円	503千円
県補助金	4,000千円	0千円
運行欠損額	9,619千円	8,767千円
収支率	2.95%	5.43%

### 3 本格運行への移行検討

令和元年度は、次のとおり実証運行の成果を検証し、令和2年度の本格運行移行を目指す。ただし、場合によっては、「実証運行の継続」あるいは「廃止」の方向もあり得る。

#### 成果把握、評価

- ・運行ダイヤ、運行ルートの見直しや利用促進の各種取組を通じた、第 期実証運行（平成30年度）及び第 期実証運行（令和元年度）の利用状況の推移
- ・成果指標の達成状況
- ・地域住民の意識調査（令和元年5～6月頃実施予定）の結果

などを踏まえて評価



市と松浦地区公共交通協議会で今後の運行について協議・検討



本格運行の決定  
（市地域公共交通活性化協議会で協議）

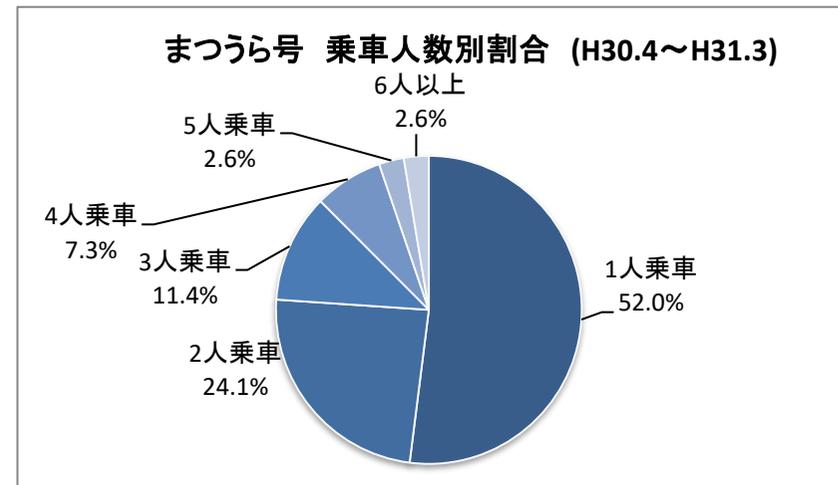
平成30年度 松浦地区デマンド乗合タクシー「まつうら号」乗合状況

別添資料

[運行便数]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年間
運行便数	63	60	64	69	65	57	66	77	81	54	67	75	798
1人乗車	24	29	32	33	38	31	27	44	33	34	38	52	415
2人乗車	17	11	15	19	12	13	26	19	25	10	15	10	192
3人乗車	10	7	10	5	8	6	5	6	8	6	10	10	91
4人乗車	7	9	3	10	5	4	2	5	8	2	2	1	58
5人乗車	2	1	2	1	1	2	3	2	5	1	0	1	21
6人以上	3	3	2	1	1	1	3	1	2	1	2	1	21
1人乗車	38%	48%	50%	48%	58%	54%	41%	57%	41%	63%	57%	69%	52%
2人乗車	27%	18%	23%	28%	18%	23%	39%	25%	31%	19%	22%	13%	24%
3人乗車	16%	12%	16%	7%	12%	11%	8%	8%	10%	11%	15%	13%	11%
4人乗車	11%	15%	5%	14%	8%	7%	3%	6%	10%	4%	3%	1%	7%
5人乗車	3%	2%	3%	1%	2%	4%	5%	3%	6%	2%	0%	1%	3%
6人以上	5%	5%	3%	1%	2%	2%	5%	1%	2%	2%	3%	1%	3%

41



【参考】平成30年度における成果指標の達成状況

	成果指標	目標値	設定根拠	現状値																			
1	一日当たり利用者数	70人	運行開始前に実施した「利用意向調査」で「利用を希望する」と回答した人数を目指すもの。	6.4人																			
	<p>達成状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の利用者数は目標値を大幅に下回っている。「利用意向調査」では、「ほぼ毎日利用したい」と回答した人が、10代も含めて10名程度おり、高校生の利用も期待していたが、高校生の利用はほとんどない状況である。</li> <li>・新発田駅方面行きと松浦地区方面行きを比較すると、新発田駅方面行きの利用が多くなっている。帰りの便については、何時に乗れるかわからず、予約できないものと考えられる。12月に松浦地区方面行きの便を3便から4便にしたことで、新発田駅方面行き利用に対する松浦地区方面行きの利用率はあがっている。</li> </ul> <p>[参考] 一日当たり最大利用可能人数 162人(定員9人×3台×6便)</p>																						
2	全運行本数に対する実運行本数(稼働率)	50%	予約型の運行は、車両や運転員の確保の関係から運行の有無に関わらず固定経費がかかるため、経費の無駄を省く観点から稼働率を指標に設定するもの。「利用意向調査」では、全便の運行が期待できるものの、予約方式が地域に浸透するにはある程度の時間を要すると考えられることから、当面は50%を目指すもの。	17.3%																			
	<p>達成状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用意向調査」に基づき3台運行を見込んでいたが、実稼働台数が1台となっており、稼働率が低くなっている。</li> </ul>																						
3	運行欠損額(実質市負担額)	9,201千円	運行開始前に実施した「利用意向調査」で「利用を希望する」と回答した人数から利用料収入を見込み、設定したもの。	9,625千円																			
	<p>達成状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料収入は当初見込みを大幅に下回っているが、高齢者等移動手段確保のための県補助金の交付が見込まれるため、運行欠損額(実質市負担額)が少なくなる見込みである。この県補助金は平成30年度限りとなっている。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>現状値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運行経費</td> <td>14,317千円</td> <td>14,033千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用料収入</td> <td>5,116千円</td> <td>408千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県補助金</td> <td>0千円</td> <td>4,000千円</td> <td>H30年度限り</td> </tr> <tr> <td>運行欠損額</td> <td>9,201千円</td> <td>9,625千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>目標値 / 当初利用見込数 17,054人 × 300円 5,116千円</p>					目標値	現状値	備考	運行経費	14,317千円	14,033千円		利用料収入	5,116千円	408千円		県補助金	0千円	4,000千円	H30年度限り	運行欠損額	9,201千円	9,625千円
	目標値	現状値	備考																				
運行経費	14,317千円	14,033千円																					
利用料収入	5,116千円	408千円																					
県補助金	0千円	4,000千円	H30年度限り																				
運行欠損額	9,201千円	9,625千円																					